

令和4年4月1日

保護者の皆様  
地域の皆様

世田谷区立緑丘中学校  
校長 高山 知 機

令和4年度に向けた改善策  
(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

先日、本校学校関係者評価委員会から、学校関係者評価結果の分析と報告を受けました。良好な評価とともに、改善を図る点について提言も受けました。

校長として寄せられたご回答やご意見をしっかりと受け止め、具体的改善策を考え、次年度の教育活動に生かすこととお約束します。

記

学校評価委員からの提言と次年度に向けた改善策

	学校評価委員会からの提言	校長として次年度に向けた改善策
<b>I 基本方針と方策について</b>		
<b>1. 学力向上と「世田谷 11+(イレブンプラス)」で培った知識・技能を活用できる能力の育成</b>		
(1)	教員の黒板の書き方やプリントの工夫について、生徒全体で90%の肯定的評価が出ており、昨年度の84%より上回った。また、全教育活動において言語活動を取り入れた学習が定着したと言える。	今般の数字に満足することなく、引き続き都教委・区教委等の主催する研修に教員を派遣し、「コロナ対応」に留意しつつ授業力の向上に努めさせる。
(2)	教員の映像やタブレット等 ICT を利用した指導の工夫については、生徒の88.2%が肯定的意見を出している。今後、利用時間と健康面に配慮しつつ、ICT 教育の積極的活用に取り組み、発展させていただきたい。	教職員の ICT スキルの向上を図りつつ、主幹養護教諭の関与を多くし、生徒の健康面に配慮した活用計画を構築させる。また、ICT 機器活用の学習指導において、今後は90%以上の肯定的評価を目指す。
(3)	「先生たちは生徒が相談しやすい」では、3 学年生徒については 67.0%、生徒全体では 63.1%となっている。生徒と教員とのコミュニケーション機械の確保が求められる。	「コロナ対応」による対面授業の減少も一因と考えられるが、引き続き、研修等に生徒理解のテーマを多く取り入れ、生徒の心に寄り添った指導が図れるよう、教員の対応力向上を図っていく。
<b>2. 体力の向上と健康に対する意識の高揚</b>		
	「体力向上や健康な生活に取り組んでいる」69.7%、「体調管理に気を付けている」81.3%、「子どもの健康に気配りしている」80.0%と肯定的評価が高い。しかし、生徒本人の主体的な体力向上や健康な生活に対する意識が低いように思われる。学校として雰囲気醸成から始められるよう対応を求める。 保護者の自由記述から、空調設備についての懸念等も指摘されている。	評価ポイント数は昨年並みではあるが、引き続き保健体育の授業を中心に、生徒の健康に対する興味・関心を喚起するとともに、生活指導による、基本的な生活習慣の確立を図るよう、生活指導部、各学年の組織的取り組みを展開していく。 昨年度から取り組んでいる「生徒カバン 6 kg」を具現化するよう教職員全員で努力するとともに、生徒の自己管理力の向上を目指していく。
<b>3. 人権を尊重した教育活動の推進</b>		
	「私は学校のルールについて考えて行動している」84.9%、「先生は学校のルールを生徒に	東京都教育委員会の発出する「人権教育プログラム」等の資料を活用し、引き続き、教

	<p>考えさせて指導している」82.8%と肯定的評価が高い。</p> <p>保護者アンケートに見る同様の問いに対しては、それぞれ62.6%、70.7%と前年度を上回っている。</p>	<p>員の人権意識の高揚を図っていく。</p> <p>また、生活指導主任を核とした生活指導部、学年主任を核とした学年組織等、組織的な指導体制の構築を図るとともに、各主任を中心に、分掌内教員の情報の共有化と分掌内格差是正に努める。</p> <p>また、前年度よりポイント数は上がったものの、指導につき、保護者への情報提供と指導方針の明確化、保護者の意向を重視した指導の構築が未だ不十分である。情報発信と保護者連携の強化を、引き続き図っていく。</p>
<p><b>4. 伝統・文化に関する教育の充実を視野に地域と信頼関係で結ばれた学校づくりの推進</b></p>		
(1)	<p>「各種学校だより等を通じた適切な学校情報の発信」について、保護者の89.0%、地域の95.1%が肯定的評価をしている。</p> <p>また「学校HPやメールによる保護者への情報提供」においては、保護者の87.7%、地域の72.5%が肯定的評価をしている。</p> <p>反面、自由記述において、連絡事項や年間予定の学校HPへの掲載、学校HPのレイアウトの改善について意見があった。IT環境の充実と必要情報の発信について配慮が必要である。</p>	<p>令和4年度より、新分掌「学校経営支援部」を立ち上げ、ICTに長けた教員を主任に任命し、学校HPの充実とオンライン関連の強化を図る。引き続き紙ベースによる情報発信については、今後とも適宜改善を施し、肯定的評価の向上を目指す。</p> <p>また、学校HPやメール等によるデータベースによる情報発信については、近年の状況より個人情報の取扱いに充分注意し、発信頻度、レイアウトの改善を重点に改善をしていく。</p>
(2)	<p>今年度もコロナ禍の影響により、十分なPTA活動や地域連携が図れなかった。会議開催、活動再開の状況が強く求められる。</p>	<p>本年度も「コロナ対応」状況の中、保護者・地域の方々から、ご理解をいただいている状況があるが、感染に留意しつつ、ニーズに応えた保護者・地域連携を具現化していく。</p>
<p><b>5. 公的機関としての学校組織の運営</b></p>		
(1)	<p>物品の管理・購入の適正な執行と明確な運用について、教職員のヒアリングを行ったが、肯定的評価が91.7%と飛躍的な改善がみられる。</p>	<p>引き続き、教員と事務主事との連絡・連携を密にし、今後は購入時期等、年間を見通した執行がなされるよう留意する。</p>
(2)	<p>給食費・教材費等の私費会計については問題が散見されなかったが、引き続き会計報告等、保護者への明朗な執行状況報告等が求められる。</p>	<p>今後とも適正執行に努め、併せて適正な執行状況の明示等に留意する。</p>
(3)	<p>決算報告書、会計事務に関する説明責任については、今後評価委員への説明の機会、適正執行の証明の明示が必要である。</p>	<p>引き続き決算の時期を極力早め、年度末の保護者会で明示できるよう、計画的な執行を心掛けるとともに、評価委員への明示に努める。</p>
<p><b>II 共通項目アンケートの評価</b></p>		
<p><b>1. 生徒のアンケートより</b></p>		
	<p>回収率は、1年生97.0%、2年生91.0%、3年生92.0%、全体の回収率は93.3%と、概ね良好であった。</p> <p>全学年を通して、「学習面」に関する肯定的評価は、90%前後と高いものがあり、前年度より教員の学習指導の工夫がある。反面、少数ではあるが学習内容がわからないなどの意見も散見され、個に応じた指導の工夫が求められる。</p> <p>「生活指導」については、概ね80%の肯定的評価であり、学校行事については、「楽しい」90.0%、「達成感がある。」88.8%と高い肯定</p>	<p>引き続き学習面については、外部研修等適切に活用し、教員の授業力向上を図っていく。また、学習に課題のある生徒については、特別支援教室（すまいる みどり）との連携を図りつつ、きめ細かい指導の確立を目指していく。</p> <p>学校行事、とりわけ修学旅行については、当初の実施時期が年度後半ということもあり、延期日程の予約ができなかったことなど、困難な状況があった。生徒・保護者への丁寧な説明を心掛けていく。</p>

	<p>率が認められる。反面、制限のある実施・中止等については、十分な説明が必要である。</p> <p>また「進路指導」については、80%前後の肯定的評価がなされている。今後とも、生徒の進路選択肢のきっかけとなる機会や場の提供を要請する。</p>	<p>生活指導については、令和4年度も人権教育と相まって、規範意識の高揚と、教員の指導力向上を、ベテラン教員の経験を活用しつつ、家庭との連携を密にして、健全育成に努める。</p> <p>進路指導については、あらたな「キャリア・未来デザイン教育」の具現化に努め、生徒の自己実現に寄与していく。</p>
<b>2. 保護者のアンケートより</b>		
	<p>回収率は、1年生 80.0%、2年生 74.0%、3年生 71.0%で、全体では75.0%であった。</p> <p>学習指導についての肯定的評価は、40%台、とりわけ1年生の保護者の不安が大きいものと認められる。コロナ禍に起因している可能性があるが、1年生保護者への丁寧な説明が求められる。</p>	<p>引き続き全校態勢で「わかる授業」の実践と、区・都・国の各種学力調査を活用し、生徒の学力成果の向上を図り、保護者の理解をいられるよう努めていく。</p> <p>令和4年度より、新分掌「学校経営支援部」を新設し、保護者への情報発信、オンライン教育活動の充実に努める。</p>
<b>3. 地域の方々のアンケートより</b>		
	<p>回収率は43.0%で、前年度(47.5%)より若干低いものとなった。</p> <p>学校の取組については、概ね80%台半ばから90%台後半と、高い肯定評価がみられる反面、「コロナ対応」に伴い、学校訪問の機会がなく、現状の把握が困難な状況が認められる。</p>	<p>学校行事の運営等、令和4年度については、極力「コロナ以前」の状況となるよう、工夫していく。</p> <p>「学び舎活動」については、今般のコロナ禍の影響で、引き続き制限の課せられる状況ではあるが、学校HP等、ICTを活用し、情報発信に努める。</p>
<b>Ⅲ 自己評価について</b>		
	<p>学校の経営方針、教育方針の明確化と教職員に対する共有化は、十分に果たされている。施設設備の安全管理、とりわけ鍵の管理等、また、ICT教育の組織的・継続的改善が引き続き求められる。</p> <p>校務分掌等の業務分担については、引き続き不公平感が散見され、更なる改善が求められる。</p>	<p>引き続きカギの管理等につき、教職員のモラル向上を図れるよう、研修を通じて徹底する。また、ICTについては、区教委の研修等を積極的に活用し、充実させる。</p> <p>校務分掌については、授業時数、教員個々の特性に鑑み「適材適所」な人事配置を心掛ける。</p>
<b>Ⅳ 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見</b>		
	<p>学習指導については、コロナ禍の中、概ね評価できる。ICT活用や授業運営についても、進歩が見受けられ、一定の評価ができる。反面、体育祭のオンライン配信等、「生徒の活躍が十分に伝わらない」等の保護者からの意見が散見された。コロナ禍で、学校行事の多くが無観客・中止・延期となったが、今後は新たな形式での実施が求められる。</p> <p>今後地域との連携についても、復活するものと期待する。</p>	<p>高評価をいただいたものについては、引き続き、生徒・保護者、地域の期待に応えられるよう、努力を継続していく。</p> <p>学校行事のICTを活用しての発信については、個人情報保護の観点も十分考慮し、可能な限り保護者のニーズに応えられるよう、工夫していきたい。</p> <p>コロナ禍による制限がある中、学校行事を含めた教育活動全般において、感染状況に留意しつつ、様々な対応措置を講じて、可能な限り「コロナ以前」に近づけるよう、新たな形式による学校行事の実施に努める。</p>